

原子力の必要性の判断 ～正しい理解のもとで～

平成28年11月12日

岡山理科大学4年 中山勇祐



目次

- ❁ 自己紹介
- ❁ 視察・意見交換会に参加する前の意識
- ❁ 日本のエネルギー供給構造が抱える現状の問題
- ❁ 視察での感想
- ❁ 意見交換会で感じたこと
- ❁ 近隣住民の方と事業者の方の信頼関係
- ❁ 私が会場の皆様にお伝えしたいこと

自己紹介

- ❁ 私は大学で数学を勉強している学生です。理系ではありますが知識としてはTVでやっている程度で原子力についてはほとんど無知でした。
- ❁ 日頃、当たり前前のように電気を使っていて使えることが当たり前とっていて電気について考える機会もなかったため改めて今回の視察などで考えてみようと思いました。

視察・意見交換会に参加する前の意識

- ❁ 原子力に賛成か反対かはいろいろな見方があるので決めかねていました。
- ❁ 福島の事故もあり他の原子力発電所などの安全面での不安は正直ありました。
- ❁ 世論では原子力反対派の意見が多く感じたためその地域に住んでいる住民の皆様もその傾向が強いと思っていました。

日本のエネルギー供給構造が抱える現状の問題

- ❁ 海外資源への依存
- ❁ エネルギー供給構造の変化
- ❁ 資源価格の不安定化と地球温暖化

日本は海外からの資源に大きく依存し、中東情勢等の変化に左右されやすい国内供給体制となっています。

加えて、福島事故により原発の安全性に対する懸念および行政、事業者の方への信頼の低下が生じています。

視察での感想①

- ❁ 率直に感じたことは、「あらゆることを想定して徹底的に管理されている」ということです。
- ❁ 全国の原子力発電所で1年以上冷やされた使用済燃料が再処理工場に運ばれて、それはまだ約95%が再利用することができます。
- ❁ 放射線には種類があり、身近なものから放射線が出ていて常日頃から浴びていることがわかりました。

視察での感想②

- ❁ 六ヶ所村 日本原燃（株）では、**地元の採用率が高い**ことを知りました。
- ❁ むつ市にある リサイクル燃料備蓄センターには、**キャスクを運ぶ専用の道路があり、道路には降雪時期を想定して、入り口の道路床面には熱ヒーターが整備されている**ことを知りました。ただし、**真冬は、搬送の予定はない**とのことでした。
- ❁ むつ市にあるリサイクル燃料備蓄センターでは、**建物の構造を工夫して、外気から風を取り入れて自然に冷却**できること、また**周辺放射線量を測る**こともわかりました。

意見交換会で感じたこと

- ❁ 六ヶ所村では、施設が出来るまでは地元の大半の人が出稼ぎに出たり地元を離れたりして家族と1年間に2週間ほどしか会えないこともありましたが施設が出来てからは進学や就職が出来るようにもなり地元に残ることが出来るようになったことを知りました。そこまでに至るには事業者の方の努力や先人の方の理解が無くてはなせないものだとして初めて知りました。
- ❁ そして何より驚いたことは六ヶ所村、むつ市ともに、近隣住民の方と事業者の方の信頼関係です。

近隣住民の方と事業者の方の信頼関係

- ❁ 近隣住民の方へ事業者（日本原燃）の方が行っている内容
 - ・全戸訪問（年2回）
 - ・勉強会や対話 など

むつ市のリサイクル燃料貯蔵（株）でも、住民向けの説明会や見学会が定期的に行われており、このように些細なことでも公表して近隣住民の方と信頼関係を築いていくことが何よりもこのような施設では大事なことだと知りました。

伝えたいこと

- ❁ 私がまず会場の皆様に伝えたいことは私たちが何気なく当たり前のように使っている電気も日本のエネルギーの現状でお話した通り海外からの輸入にたよりその資源は有限であること。そして原子力で作った電気の裏には住民の方の理解や事業者の方の努力があってこそ使えていることを覚えていて欲しいと思います。そして原子力に賛成か反対かは白黒つける必要はあまりなく必要なことは原子力を正しく理解してメリットやデメリットを考えていくことが1番大切なことだということです。